



平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成29年8月10日

上場会社名 株式会社アルファポリス
 コード番号 9467 URL <http://www.alphapolis.co.jp/company/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	852	30.7	51	33.9	50	34.4	32	38.0
29年3月期第1四半期	652	16.8	38	81.3	37	81.4	23	83.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	6.74	
29年3月期第1四半期	4.88	

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	4,940	3,946	79.9
29年3月期	4,959	3,913	78.9

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 3,946百万円 29年3月期 3,913百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.00	0.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,500	9.9	200	14.9	200	14.1	115	13.8	23.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	4,843,700 株	29年3月期	4,843,700 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	株	29年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	4,843,700 株	29年3月期1Q	4,843,700 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）におけるわが国経済は、政府による各種経済政策等の効果により、企業の業績は概ね堅調に推移し、景気は緩やかながらも回復基調が続きました。一方、世界経済に対する不透明感の高まりから、為替や株式相場の動向などの経済環境の先行きは、依然として予断を許さない状況が続いています。

当社が属する出版業界におきましては、引き続き厳しい状況が続いております。出版科学研究所によると、平成29年上半年（1月から6月まで）の紙の出版物の推定販売金額は、前年同期比5.5%減となる7,281億円となりました。その内訳は、「書籍」が同2.7%減となる3,954億円、「雑誌」は同8.5%減の3,327億円となっており、「雑誌」が特に厳しい状況となっております。一方、電子出版物については、同21.5%増の1,029億円となり、堅調に成長を続けております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いものを望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。また、出版事業を通して蓄積した自社IP（小説、漫画、キャラクターなど）を活かしたオリジナルゲームを開発・運用する事業等にも取り組んでまいりました。

以上の活動の結果、当第1四半期累計期間の売上高は852,134千円（前年同期比30.7%増）、営業利益は51,075千円（同33.9%増）、経常利益は50,982千円（同34.4%増）、四半期純利益は32,629千円（同38.0%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 出版事業

出版事業について、当第1四半期累計期間の出版点数は、より質の高い書籍制作に重点をおいた結果、前年同期を8点下回る101点となりました。一方、電子書籍専用端末やスマートフォン向けの電子書籍販売は引き続き堅調な売行きとなりました。また、新サービス「レンタル」については、先行リリースしたアプリ版に続き、平成29年6月27日にはWebサイト版の提供も開始いたしました。加えて、前年同期に発生した『ゲート』関連書籍の一時的な返本増のような特別な事象は、当第1四半期累計期間では発生しておらず、返本については安定的に推移いたしました。

以上の結果、当事業の売上高は727,815千円（前年同期比27.3%増）、セグメント利益は244,416千円（同74.3%増）となり、収益性は大幅に回復いたしました。

書籍のジャンル別概況は次のとおりであります。

1. ライトノベル

ラインナップの関係上、当第1四半期累計期間の刊行点数は前年同期をやや下回る55点（前年同期比2点減）となりました。一方、当社の定番ヒットタイトルである『とあるおっさんのVRMMO活動記』や『ダイテス領攻防記』等の売行きは引き続き好調でありました。加えて、第9回ファンタジー小説大賞・特別賞受賞作『異世界ゆるり紀行』は、3刷・2万部を突破するなど、新作が芽生えてきたことから、ライトノベル全体の売上高につきましては、前年同期を上回り、比較的堅調に推移いたしました。

2. 漫画

ライトノベルと同様、ラインナップの関係上、当第1四半期累計期間の刊行点数は前年同期を大きく下回る9点（前年同期比7点減）となりました。しかしながら、当第1四半期累計期間の刊行には、大型タイトル『ゲート』最新刊が含まれていたこと、及び、新サービス「レンタル」の売行きが堅調であったこと、並びに、前年同期に発生していた『ゲート』関連書籍のような一時的な返本増は、当第1四半期累計期間では発生していないことから、売上高は前年同期を上回る結果となりました。

また、将来において書籍刊行の元となるWeb連載漫画については、当第1四半期累計期間では、新たに11本の新規連載を開始いたしました。中でも、当社投稿サイトから編集部がスカウトいたしました4名の漫画家による、4本の完全オリジナル漫画を連載できたことは、今後の更なる成長の足掛かりとなる実績であるといえます。

3. 文庫

当第1四半期累計期間では、単行本及び漫画でも人気となっている『異世界でカフェを開店しました。』を文庫化いたしました。その結果、同シリーズの発行部数累計は40万部を突破いたしました。

また、文庫においても漫画と同様、前年同期に発生していた『ゲート』関連書籍のような一時的な返本増は、当第1四半期累計期間では発生していないことから、売上高は前年同期を上回る結果となりました。

4. その他

当第1四半期累計期間では、当社ビジネスサイトで人気の連載『訳せない日本語』を書籍化いたしました。本作は、各種メディアでも取り上げられるなど、一定の成果をあげることができました。

しかしながら、ラインナップの充実は発展途上であることから、刊行点数が前年同期を下回ったことを主要要因として、売上高につきましても、前年同期を下回る結果となりました。

② ゲーム事業

1. スマホアプリ

スマホアプリ『リ・モンスター (Re:Monster)』につきましては、平成29年5月に実施した「ゴブリンフェスティバル」が好評となり、売上高は、単月では過去最高の売上高を更新いたしました。また、同年6月1日には、ベトナム現地法人・フジテクノロジー株式会社により、ベトナム語版の『リ・モンスター (Re:Monster)』の配信も決定いたしました。なお、ベトナム語版アプリは同年6月28日にリリース済となっております。

一方、『THE NEW GATE』については、様々な新規コンテンツの投入を行うものの、売上の回復に直結させることはできず、売上高は厳しい状況が続いております。

平成29年4月にリリースした『異世界でカフェを開店しました。』については、初動の売上高は厳しい結果となりました。なお、本アプリについては、売上の改善を図るべく同年8月からは運用体制を一新する予定です。

2. PCブラウザゲーム

『ワンモア・フリーライフ・オンライン』については、平成29年4月に実施した「1周年記念イベント」によるユーザー回帰が進んだことにより、売上高は徐々に回復してまいりました。

一方、同年4月にリリースした『月が導く異世界道中』については、ユーザー獲得が想定通り進まず、売上高は厳しい結果となりました。なお、今後は新たなユーザーを獲得するための施策を実施予定です。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は124,318千円（前年同期比55.0%増）、セグメント損失は88,957千円（前年同期は28,962千円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第1四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末と比較して4,048千円減少し、4,666,044千円となりました。これは主に、売掛金の回収に伴う現金及び預金の増加（前事業年度末比117,505千円増）及び売掛金の減少（同103,548千円減）、並びに当第1四半期累計期間に対する未払法人税等の計上に伴い、その他に含まれる未収還付法人税等が減少（同16,007千円減）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末と比較して15,396千円減少し、274,313千円となりました。これは主に、無形固定資産の減少（同19,744千円減）によるものであり、その主な要因はスマホアプリ等に係るソフトウェア制作費を償却したことによるものであります。

② 負債

当第1四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ46,475千円減少し、946,631千円となりました。これは主に、従業員の増加に伴い賞与引当金が増加（前事業年度末比19,858千円増）する一方で、前第4四半期会計期間比で出版事業売上高が減少したことに伴い返品調整引当金及び買掛金が減少（返品調整引当金：同42,901千円減、買掛金：同22,672千円減）したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ5,598千円減少し、47,630千円となりました。これは主に、借入金の返済に伴い長期借入金が増加（同10,683千円増）したことによるものであります。

③ 純資産

当第1四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ32,629千円増加し、3,946,096千円となりました。これは全て、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月12日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

（注）業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,478,034	2,595,539
売掛金	1,854,750	1,751,201
製品	155,663	151,932
仕掛品	68,237	79,731
その他	113,407	87,640
流動資産合計	4,670,093	4,666,044
固定資産		
有形固定資産	9,409	15,049
無形固定資産	115,783	96,038
投資その他の資産	164,517	163,226
固定資産合計	289,710	274,313
資産合計	4,959,803	4,940,358
負債の部		
流動負債		
買掛金	77,960	55,287
1年内返済予定の長期借入金	42,732	42,732
未払金	381,375	369,959
賞与引当金	23,629	43,487
返品調整引当金	436,579	393,678
その他	30,830	41,486
流動負債合計	993,107	946,631
固定負債		
長期借入金	53,229	42,546
その他	-	5,084
固定負債合計	53,229	47,630
負債合計	1,046,336	994,262
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	2,195,818	2,228,447
株主資本合計	3,913,467	3,946,096
純資産合計	3,913,467	3,946,096
負債純資産合計	4,959,803	4,940,358

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
売上高	652,111	852,134
売上原価	322,626	336,721
売上総利益	329,484	515,413
返品調整引当金戻入額	491,730	436,579
返品調整引当金繰入額	457,028	393,678
差引売上総利益	364,185	558,314
販売費及び一般管理費	326,027	507,239
営業利益	38,158	51,075
営業外収益		
受取利息	6	0
その他	-	50
営業外収益合計	6	50
営業外費用		
支払利息	232	143
営業外費用合計	232	143
経常利益	37,931	50,982
税引前四半期純利益	37,931	50,982
法人税等	14,292	18,353
四半期純利益	23,638	32,629

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	出版事業	ゲーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	571,892	80,218	652,111	—	652,111
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	571,892	80,218	652,111	—	652,111
セグメント利益又は損失(△)	140,215	△28,962	111,252	△73,094	38,158

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△73,094千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	出版事業	ゲーム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	727,815	124,318	852,134	-	852,134
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	727,815	124,318	852,134	-	852,134
セグメント利益又は損失(△)	244,416	△88,957	155,458	△104,383	51,075

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△104,383千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。